



NPO法人  
ヒマラヤ保全協会

IHC-JAPAN: The Institute for  
Himalayan Conservation Japan

# Shangri-la

シャングリラ



ネパール国内

COVID-19感染状況最前線

現地からの声

100円でヒマラヤに1本の  を植えよう!

*One coin One tree on Himalayan, tomorrow will be in your hands.*

## ネパール国内COVID-19感染状況最前線

世界中の人々の生活を一変させてしまったコロナ・ウイルスですが、ネパールでは世界でも最初期に感染が発覚しました。今回は、ネパールにおけるCOVID-19の状況と、今後の活動についてまとめてみたいと思います。

コロナ・ウイルスの発生は2019年12月に中国湖北省武漢市で最初に確認され、2020年3月11日には世界保健機関(WHO)によってパンデミックとして認定されました<sup>1</sup>。2021年1月25日の時点で、192の国・地域で9,920万件以上の感染者が確認されており、すでに213万人以上が死亡しています。ネパールでも、合計感染者数は271,000人に達し(回復者数は266,000人)、死亡者の数も2,027人に達しています(2021年1月30日現在)(図1)<sup>2</sup>。

ネパールでの最初の陽性者は、1月9日に武漢からカトマンズに帰省した32歳のネパール人留学生でした<sup>3</sup>。中国でのウイルス発生を知っていた男性は、1月13日にカトマンズのスクラジ熱帯感染症病院(STIDH)を受診し、1月23日に陽

性が確認されました。その後、カトマンズ、ルンビニ、チトワン、ポカラ、バイラハワ、イラムなどの主要な国境や検問所には、監視チームとヘルスデスクが設置されました。カトマンズには5つの指定大病院がありますが、当初準備できた隔離病床は55床だけでした。そのため、事態を重く見た政府は3月24日に国境を封鎖しました。ネパールではCOVID-19による最初の死者は、5月14日に確認されたシンドウパルチヨーク出身の出産直後の女性(29歳)でした<sup>4</sup>。

ネパール政府によると現在、ネパール国内人口の18.7%が貧困下で生活するとされています。COVIDによる経済活動や物流の停滞により、新たに生活困窮者が急増する可能性があり、国内人口3,042万人の半数が、極度の貧困に陥る可能性も指摘されています<sup>5</sup>。そのため、IHCでもポスト・コロナ社会に対応したあらたな活動の必要に迫られています。

※ネパール現地では、JICAがニュースレターのなかで手洗いうがいなどのマナーページを作っています(図2)<sup>6</sup>。また、日本国内では、豊川市が、COVID-19感染防止啓発パンフレットのネパール語版と作成しています(図3)。

### 1日あたりの推移



【図1】

【ネパールのCOVID-19の最新情報ソース】

■ネパール国内のCOVID-19状況のデータソース <https://covid19.mohp.gov.np/#/>

■Googleニュース

<https://news.google.com/covid19/map?hl=ja&mid=%2Fm%2F016zwt&gl=JP&ceid=JP%3Aja>

■COVID-19 pandemic in Nepal, Wikipedia

[https://en.wikipedia.org/wiki/COVID-19\\_pandemic\\_in\\_Nepal#cite\\_note-5](https://en.wikipedia.org/wiki/COVID-19_pandemic_in_Nepal#cite_note-5)

■National Disaster Risk Reduction and Management Authority, Ministry of Home Affairs, Government of Nepal <https://covid19.ndrma.gov.np/>

【参考ウェブサイト】

<sup>1</sup> "WHO Director-General's opening remarks at the media briefing on COVID-19 - 11 March 2020".

World Health Organization (11th March 2020)

<https://www.who.int/director-general/speeches/detail/who-director-general-s-opening-remarks-at-the-media-briefing-on-covid-19---11-march-2020>.

<sup>2</sup> Googleニュース

<https://news.google.com/covid19/map?hl=ja&mid=%2Fm%2F016zwt&gl=JP&ceid=JP%3Aja>

<sup>3</sup> Nepal's first case of COVID-19 and public health response

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7107523/>

<sup>4</sup> "Nepal reports its first Covid-19 death". [kathmandupost.com](https://www.kathmandupost.com/national/2020/05/16/no-evidence-yet-that-covid-19-patient-s-death-on-thursday-was-due-to-the-disease) (on 6 July 2020)

<https://www.kathmandupost.com/national/2020/05/16/no-evidence-yet-that-covid-19-patient-s-death-on-thursday-was-due-to-the-disease>

<sup>5</sup> "COVID-19 could push nearly one-third of Nepal's population below poverty line: World Bank report". Xinhua News Agency (on 23rd July 2020)

[http://www.xinhuanet.com/english/2020-07/23/c\\_139235741.htm](http://www.xinhuanet.com/english/2020-07/23/c_139235741.htm).

<sup>6</sup> JICA Nepal Office News Letter No.86

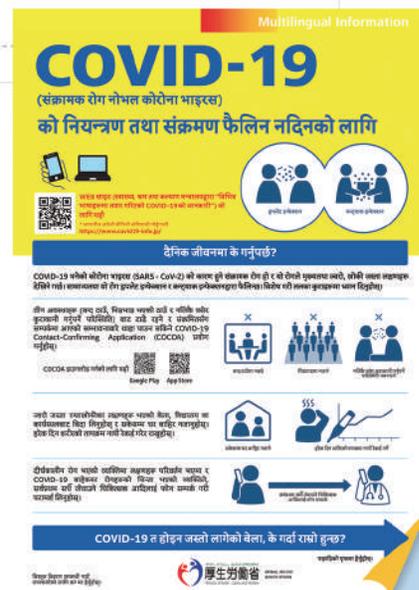
[https://www.jica.go.jp/nepal/english/office/others/c8h0vm00001jmat-att/newsletter\\_86.pdf](https://www.jica.go.jp/nepal/english/office/others/c8h0vm00001jmat-att/newsletter_86.pdf)

<sup>7</sup> "Visit Nepal 2020 called off, finally". [The Kathmandu Post](https://www.kathmandupost.com/national/2020/03/31/visit-nepal-2020-called-off-finally) (on 2nd June 2020)

<https://www.kathmandupost.com/national/2020/03/31/visit-nepal-2020-called-off-finally>.



↑ 【図2】



→ 【図3】

## バランジャ村のキウイ苗



図B1 バランジャ村のIHC協力農家のみなさんが、2019年12月に植えたキウイ苗。高さは1.5mまで成長し、今年はキウイ棚に広く葉を広げると予想されます。

図B2 キウイ棚は、現在は地元で採れた竹製で組んでいますが、2~3年後には鉄製のしっかりした棚に換装する必要があります。

図B3 以前はキウイ棚の下に、小松菜やひよこ豆など、別の作物を栽培して生育が遅くなってしま

ったりしました。現在は、キウイ栽培地の地面はきれいに整えられています。

図B4 小学校に寄贈したオスとメス2本のキウイ苗。この1年間で屋根に届くほどに成長しました。

図B5 実験的に日本から持ち込んだ種子による実生苗育成では、ビワがもっとも成長が早く大きくなりました。今後は、街路樹や植林樹としてだけでなく、果実の利用も期待されます。

## レスパル村のナーサリー



図L1~L2 ビニールハウスで苗床を覆い、発芽をうながす作業が、高地で気温の低いレスパル村では欠かせません。ビニールハウスで育てられた土はほかほかと温かく、種子を大切に育ててくれます。

図L3 レスパル村のナーサリーで育つ、オガタマノキ、ハンノキ、パツラマツなどの稚幼木。レスパル村での育苗活動も軌道に乗り、毎年10,000本近くを植林できるようになりました。

図L4 村のボランティアさんが、種子の苗床となるポリポットに、山から採取した新鮮で栄養分の高い土を丁寧に詰めてゆきます。

図L5 ドングリの種子を点播する苗畑管理人のディルさん。ドングリの木は優秀な木材資源となり、シイタケ栽培で種駒を植える原木としても用いることができます。

# 現 地 報 告

## 1. ポカラおよび事業地の状況

ネパール国内の遠隔農村部は、ウイルス感染者数やパンデミックそのものは落ち着いているとされています。ただし、国内全域での経済活動の停滞によって、都市部に出稼ぎに出ていた人々が仕事を失っている状況にあります。また、人・物資の往来、市場機能など停滞しており、農村社会はCOVID-19による社会的混乱

の二次的な影響を受けている状況にあります。さらに、飢餓をはじめ、自殺者や犯罪などが増加している傾向にあります。

以下、現地スタッフのルケシュさんに、レスパル村およびバランジャ村の協力者の方々に連絡を取り、コメントをお寄せいただきました。

### 【レスパル村の状況】



①Gopal Pun氏  
(教師)

レスパルなどの遠隔農村は、ポカラやカトマンズほどCOVIDの影響を受けていませんが、いまやどこへも行けなくなったため出稼ぎができません。コロナの蔓延以降は、村に戻りする労働者も大勢います。農業は収穫時期もあるため、直接の生活改善には直結していません。いまは、

なによりも出稼ぎを再開して、収入を確保することが重要になっています。



②Dil Bamapur Pun氏 51歳  
(苗圃管理人)

COVID-19でもっとも恐れているのは、人々の精神や情緒に経験したことのないような悪影響を及ぼしている点です。また、収入と雇用の機会がなくなり、食料品の値段もどんどん高くなっている。地域の小規模農業だけでは、生活は成り立たなくな

っています。とくに、運搬費や食料品価格が高騰し、貧困層の生活はどんどん厳しくなっています。COVID-19に立ち向かう精神的サポートも必要になってきています。



④Man Kumar Pun氏 38歳  
(村議員・ソーシャルワーカー)

出稼ぎ労働者の帰国や外貨獲得機会の喪失は、人々を精神的にも追い詰めています。国境封鎖の影響で燃料費が上昇し、日用品などのすべてが値上がりしています。感染予防のためのマスク、石鹸、消毒液などが農村部には行き届いていません。



⑤Narshing Pun氏 56歳  
(苗圃管理組合)

このままCOVID-19によって激変した社会が、再び元に戻らないのではないか、という漠然とした不安がすべての人にあります。それでも、IHCのナーサリーでの育苗と植林活動の継続を望みます。



③Dhan Bamapur Pun氏 68歳  
(村議員・ソーシャルワーカー)

農村部では、社会間距離の確保や手洗い・うがいなど、これまでない習慣に困惑しています。経済危機はネパールだけの問題ではなく、多くの出稼ぎ労働者が国に戻ってきている。そして、国外にとどまっている労働者も仕事が減り、ネパールへの送金額が激減している状況にあります。今後IHCには、養蜂、ヤギ飼育、ニワトリ飼育などの収入向上の機会が欲しいと考えています。また、2021年以降も、レスパル村での植林活動を継続してほしいと思います。



## 【バランジャ村の状況】



⑥Kabindra Roka氏  
(村議会議員)

コロナの日常が平凡になりつつあるので、危険性を再認識させるような指導が必要と思われます。ネパールでは地域間の移動や人々の接触に対してあまり危機感がなく、感染をする／させるリスクについても、十分に理解できているとは言えません。



⑧Bhabiraj Pun氏 43歳  
(農家)

COVID-19のせいで、村人は精神的にとっても鬱屈した生活を送っています。人々の移動や旅行についての概念がまったく変わってしまったと言えます。遠隔農村部では、十分な感染予防品（マスク・石鹼・消毒液など）が行き渡っていないため、これら医療品の供給があればとても助かります。



⑩Jak Bahadur Roka氏 39歳  
(バランジャ小学校・校長)

遠隔地でもある農村でも、社会間距離の確保や手指消毒の徹底など、生活スタイルが激変してしまいました。学校に通う生徒のすべてにも、これらを徹底させることをしなければなりません。特に、コロナ状況下での感染予防に対する意識改革を進めなければなりません。コロナが収まった際には、ゴミ箱や廃棄物置き場の設置、校内・村内をつねに清潔に保つための研修など、子どもたちの環境保全意識を向上できるようなプログラムをIHCと共同で実施したいと考えています。また各クラスへの本棚の設置や図書室の開設などの支援にも期待しています。

## 2. 今後のIHCとポスト・コロナ事業の展開.

短いインタビューを通じて村人と情報をシェアしたところでは現在、事業地を含む遠隔農村のほぼすべてで、深刻な物資の不足が問題となっています。また感染予防のためのマスク・石鹼・消毒液が入手できないことから、わずかな感染者からでも一気にウイルスが蔓延するような危うい状況にあると言えます。さらに物価上昇により、多数の人々が最低限の食料にも事欠く状況があり、今後も深刻化する可能性があります。農村部では、運搬費や移動費の上昇により街から



⑦Bhusan Budamori氏 25歳  
(学生)

いまは、村からは簡単には出ることも、戻ることもできないので、みんな精神的にもまいっています。移動・輸送費用の固定相場が、もはやまったく通じないため、ほとんど言い値で支払われています。しかも、村人や遠隔農村の人々はいまだ、COVID-19の本当の恐ろしさを感じていないように感じます（移動制限や感染予防の徹底などが必要）。政府はワクチン接種をはじめるとしていますが、遠隔地の人々はいったいつ接種できるのか見当もつかない不安があります。



⑨Hom Bahadur氏 52歳  
(農家)

いまは物価の高騰が著しく、たとえお金があったとしてもロックダウンの影響で物資がなにも調達できなくなっています。国境封鎖は解かれつつありますので、今後の改善の心待ちにしています。IHCにはコロナが収まった際には、ビニールハウス栽培や灌漑などの農業技術を指導していただきたいと考えています。



⑪Resham Budamori氏 48歳  
(農家・IHC試験農場管理者)

村の人々は、いまだにワクチンが届かないことへの不安があります。食べ物や日用品が圧倒的に不足しているのに、移動での感染リスクがあるため容易に村をできることができません。しかも、地域の乗り合いバスやタクシーでも、密をさけるために、通常の定員に、通常の定員の半分に制限しています。そのため、移動費が2倍になってしまっているのです。そのため、食料を調達するために町や市場にも行けない状況がつづいています。また、マスク・石鹼・消毒液が不足しており、とくに貧困者が購入できないことにより、感染を広げてしまう可能性もあります。

物資の供給が滞り、かつ遠隔地からも市場にアクセスできない、いわば「孤立状態」に陥っていると考えられます。

IHCでは今後、マスク・石鹼・消毒液などの物資の供給も含めて、できる限りの感染予防対策で現地をサポートしたいと考えています。また農業の近代化やローカルな農作物栽培を通じた収入機会の向上のための技術指導にも、多くの要望がありました。コロナの収束の兆しが見えたとき現地を訪問し、コロナ後の遠隔農村コミュニティの再興につとめたいと思います。

50年前の早朝のシーカ村。ディディやカンチイの大きな歌声が聞こえ私は振り返った。尾根筋の裏側から洗濯している着物が次々と舞い上がって、大きな笑い声やサヨナラと叫ぶ声も聞こえて来た。村はずれまで多くの村人が私と妻を見送ってくれ、お別れの挨拶を済ませてポカラに向かって歩み始めた直後のことであった。見送りに来れなかった女・子どもたちが谷間の洗濯場で、私たちとの別れの複雑な気持ちを精一杯表しているのを感じ胸が熱くなった。しかし、先を急がねばならない。シーカ村に残して来た急性肝炎で瀕死の仲間を救助するため、一時も早くポカラに着いてヘリコプターをチャーターしなくてはならなかったからだ。

以来50年、私たち東工大山岳部によるシーカ村での水道・軽架線建設からスタートしたカリガンタキ周辺地域の山村活性化のための支援活動は今日まで続けられてきた。この間、資金、人材面など多くの困難を抱えていたこともあるが、その時々会のリーダー・メンバーのご尽力により乗り越えてきた。関係者の皆様の知恵と努力によりその活動範囲を広げ、活動内容も多方面にわたっている。

植林活動は村人と一緒に一步一步地道に続けることで、今日では広大な広さで大きな成果を上げている。村人自身による手工芸作り、チーズ製造

などネパール山村の「村人の、村人による、村人の為の」支援活動は現地目線で支援可能なアイデアを考え、現地村人と共に実践しなくては定着しない時間と忍耐が不可欠な容易ならない困難なプロジェクトである。これらの継続的な活動により現地での人材も徐々に育成されてきていると聞いている。

押しつけや切り売りの姿勢ではなく、現地の人々に寄り添って現場のニーズを掘り起こす活動は我々の恩師 川喜田二郎先生の「野外科学の思想の実践」にほかならない。そこには指南書となるべきマニュアルや教科書はない。一期一会のバイオニヤワークの世界である。目の前に立ちはだかる問題を解決するには、知識や資金は重要な条件ではあるがあくまでも道具でしかない。最も重要なものは問題を解決したいという意志と目標に向かって挑戦する精神である。

今日までのヒマラヤ保全協会の活動そのものが「野外科学の思想の実践」と言えるでしょう。これまでの諸活動に取り組んでこられた同胞諸氏に心より敬意を表したい。

本年2月5日は家内と私の金婚式。シーカ村をあわただしく去ってカトマンズでタカリーのセルチャー一家のアレンジで現地式の結婚式を挙げてから50年。このタイミングでこのような拙文を書かせていただけることに感謝申し上げたい。



## 第6回 ネパール語を学ぶ・・・病気になったら何て言うのか？・・・

ナマステ！サンツァイヌフンツァ？（お元気ですか？）

さて、世界はコロナ禍で大変な状況ですので、今回のこのコラムも時勢に合わせて、体調が悪く（サンツァイ ツァイナ）なったり病気になったり（ビマリー ラギョ）したときに、ネパール語でどう言うのかを紹介することにします。

ネパールに行くとも体調が悪くなることはよくあることなので、この機会に知っておいて損はありません。

まず、熱（ジョロ）が出たり、咳（コキ・ルガコキ）が出たりするときは、くっつく・付着する（ラグヌ）の過去形（ラギョ）を使ってジョロラギョ（熱がある）、コキ ラギョ（咳が出る）と言います。風邪（ルガ）をひいたも（ルガ ラギョ）でいいです。熱が来た（ゾロ アヨ）という表現もよく耳にします。

病気は（ビラミー・ビマリー・ローグ等）だから、「病気です」は（ビラミー ツァ） または（ビラミー バヨ）等で表せます。バヨはbe動詞のツァの過去形です。また、けがをしたときは、けが（チョト）がくっついた（チョト ラギョ）や、傷（ガウ）がくっついた（ガウ ラギョ）と言います。出血した時は血（ラガト）が出る（ニスキンツァ）で（ラガト ニスキンツァ）または（ラガト ニスキョ（過去形））、これも（ラガト アヨ）でもOK。痛い（ドウクツァやドウキョ（過去形））という表現もよく使うので覚えておくべきでしょう。➤

▶痛む部分が頭（タウコ）なら頭が痛いは（タウコ ドウキョ）。眼（アカ）、喉（ガンティ）、歯（ダート）、お腹（ペット）足（クッタ）をタウコの代わりにいければ例えばおなかが痛い（ペット ドウキョ）です。おなかついでに下痢（パカラ）をするは、下痢がくっついた（パカラ ラギョ）となります。

次に処置の方ですが、薬は（オウサディ）なので、薬が欲しい（オウサディ ツァハンツ）、薬が必要です（オウサディ ツァヒンツァ）、薬をください（オウサディ ディヌス）のうち1つを覚えておけば、薬が手に入るでしょう。病院（アスパタル）に行きたいなら、病院に行きたいです（アスパタル ザナ ツァハンツ）。そして、お医者さんは（ドクトル）でOK。

そういえば、私が住んだ20年ちょっと前は、村にはドクトルがいなくても、ダミ・ジャンクリとかいう祈祷師さんがいて、呪文と祈祷の後でちゃんとした薬（アスピリンとか）を病人に渡して、しっかり病気を治していましたが、今でも彼らはいるのでしょいか・・・。

それでは、身体（サリール）に（マ）注意して（ホース ガレラ）良い人生（ラムロ ジーバン）を送りましょう（ビタオン）。

フェリ ベトン（また会いましょう）！

（文責：布施達治）

ジョロ

ラギョ



アスパタル



ドクトル

# 事

# 務

# 局

# だより

## 2021年度の総会の案内

**2021年6月6日 (日)**

**14:00~**

**Zoom**

(後日参加者の方に詳細をお伝えします)

### ■プログラム

14:00~ 会員総会 開会

議長選出 定足数確認 書記・議事録署名人選出  
参加者自己紹介

第1号議案 2020年度事業報告

第2号議案 2020年度決算報告

監査報告

第3号議案 2021年度事業計画

第4号議案 2021年度予算

会員総会 閉会



## 寄付で支援する

100円で1本の木がヒマラヤに植えられます!!

1口 3,000円から何口でも結構です。

下記の振込み先にご送金ください。

### ■ みずほ銀行新宿南口支店

普通2005209

NPO法人 ヒマラヤ保全協会

## マンスリーサポーターになる

毎月 1,000円 からマンスリーサポーターになることができます。マンスリーサポーターの皆様には、「活動報告書&計画書」年1回)をお送りします。

### ■ 郵便振替

00100-0-709154

※銀行振込みをご利用いただいた場合は、ご氏名(ふりがな)とご住所を、e-mailにてご連絡ください。

## 会員になる

年会費：個人会員 5,000円・団体会員 30,000円

会員の皆様には、現地の活動が盛りだくさんの

会報『シャングリラ(Shangri-la)』をおとどけします。

**100円で1本の木をヒマラヤに植えよう！** ご支援お待ちしております！

シャングリラ第108号 2021年3月6日発行 編集・発行 NPO法人 ヒマラヤ保全協会

TEL: 080-3570-8458 e-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp ホームページ: <http://www.ihc-japan.org>